

「梅雨の時期に関する沖縄地方気象情報 第2号」の解説

1 梅雨明けの発表

沖縄地方は、6月20日ごろに梅雨明けしたと見られることから、沖縄気象台は本日11時00分に「梅雨の時期に関する沖縄地方気象情報 第2号」を発表しました。

2 今年の「梅雨明け」は6月20日ごろ（階級：早い）

平年より1日早い、昨年より13日早い

- (1) 平年は6月21日ごろ
- (2) 昨年（令和3年）は7月3日ごろ
- (3) 1951年（昭和26年）からの統計
 - ア 最も早い梅雨明けは2015年（平成27年）の6月8日ごろ
 - イ 最も遅い梅雨明けは2019年（令和元年）の7月10日ごろ

【参考】梅雨明けの平年及び階級

	平年	かなり早い	早い	平年並	遅い	かなり遅い
梅雨明け	6/21 ごろ	～6/10 ごろ	6/11 ごろ ～6/20 ごろ	6/21 ごろ ～6/23 ごろ	6/24 ごろ ～6/29 ごろ	6/30 ごろ～

（統計期間 1991～2020年）

注）梅雨は季節現象であり、その入り明けは、平均的に5日間程度の「移り変わり」の期間がある。

3 今年の梅雨期間（5月4日～6月19日）の降水量（速報値）、平年値及び平年比

官署名	実況値（mm）	平年値（mm）	平年比（%）
那 覇	1072.5	441.6	243
名 護	1204.5	411.7	293
久米島	1032.0	483.2	214
南大東島	614.0	378.6	162
宮古島	1033.5	363.2	285
石垣島	749.0	346.5	216
西表島	687.0	297.5	231
与那国島	721.5	310.4	232

4 今年の梅雨期間（5月4日～6月19日）の日照時間（速報値）、平年値及び平年比

官署名	実況値（時間）	平年値（時間）	平年比（%）
那 覇	96.4	211.5	46
名 護	94.3	205.9	46
久米島	107.1	208.4	51
南大東島	156.8	270.7	58
宮古島	170.7	240.8	71
石垣島	181.5	265.8	68
西表島	180.5	262.3	69
与那国島	161.2	229.0	70

5 今年の梅雨の特徴

沖縄地方は、5月4日ごろ（平年より6日早い）に梅雨入りしたと見られ、6月20日ごろ（平年より1日早い）に梅雨明けしたと見られます。5月4日から6月19日の期間降水量は、名護で1204.5ミリ（平年比293%）を観測するなど、沖縄地方の多くの観測点で降水量は平年の2倍以上となりました。また、沖縄地方の全ての観測点で日照時間が平年を下回りました。5月4日ごろに梅雨入りした沖縄地方は、沖縄近海に梅雨前線が停滞する日が続き、曇りや雨の日が多くなり、梅雨前線に向かって湿った空気が多く流れ込んで、梅雨前線付近の対流活動が活発となりました（項目3、項目4の表を参照）。

月別にみると、5月の沖縄地方は、日降水量が5月11日には与那国島で218ミリ、5月28日には下地島で209ミリ、5月31日には那覇で162.5ミリ、糸数で179.5ミリの大雨となりました。また、沖縄地方における地域平均*の月降水量平年比は303%、月間日照時間の平年比は49%と、5月としては統計を開始した1946年以降、月降水量は最も多くなり、月間日照時間は最も少くなりました。

6月の沖縄地方は、6月1日の日降水量が東で123.5ミリ、名護で126.5ミリ、2日の日降水量が渡名喜で133.0ミリの大雨となりました。また、6月18日には、本島北部を中心に大雨となり、名護で日降水量124.5ミリの雨を観測しました。

注) 梅雨の時期に関する気象情報は、現在（本日）までの天候経過と1週間先までの見通しをもとに発表したものです。後日、春から夏にかけての実際の天候経過を考慮した検討を行い、その結果、本情報で発表した期日に変更となる場合があります。

※ 沖縄地方における地域平均平年比は、いつもの年（平年値：1991～2020年の平均）と比べてどのくらい多い（少ない）かを地域全体でみるもので、統計期間の長い那覇、名護、久米島、宮古島、石垣島、西表島及び与那国島における気象要素の平年比を7地点平均することにより算出しています。